

中学3年生交流戦を開催

中学3年生へのはなむけとなる交流戦が開かれた。各競技とも東西に会場を分散して密を避け、屋内会場では運営に当たった顧問が選手や観戦者の入れ替えとともに座席を消毒するなど、新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めた。選手たちは暑さにも関わらず、懸命のプレーを見せ、保護者は拍手で健闘を称えた。

野球

野球専門部は東西にわかれて交流試合を計画し、8月1日と2日の2日間、交流試合を行った。

東地区は第四中学校を会場に二中、四中、六中、東邦中が各チーム2試合ずつ

対戦した。西地区は一中、三中、五中、七中が初日は第三中学校、2日目は第一中学校を会場に各校が1日1試合ずつ戦った。各会場とも3年生の保護者が、熱心に試合の様子を見守った。一中の阿部皓介キャプテンは「日本一を目指して練習をしてきましたが、大会が中止となってしまい、悔しい思いをしました。しかし、厳しい社会情勢の中で、このような機会を与えて下さった方々に感謝しています。これからも一中野球部の応援をよろしくお願いします」とメッセージを寄せた。



バスケ

バスケットボールの夏季交流試合は西地区、東地区に分けられ、8月1日と2日に対戦が行われた。

西地区は第一中学校を会場に一中、三中、五中、七中、東地区は第四中学校で二中、四中、六中、東邦中が2日間のトーナメント戦で競い、各地区の優勝チーム、最優秀選手、優秀選手ほかが称えられた。

西地区の男子の最終戦は三中と五中との顔合戦となった。最終クォーター、五中の2点リードで試合は膠着するが、三中が逆転。しかし、五中も粘り



を見せて42-42の同点となり、延長戦に突入する。三中はキャプテンの相川選手が得点。フリースローも決めりドする。五中も3点シュートで応戦するが、タイムアップとなり、接戦は終了した。

西地区の女子は一中が危なげない得点力で実力を示した。男子三中の相川輝キャプテンは「コート内でもコート外でも声をかけ合い、自分たちのペースに持っていく、勝ちたいという強い思いを忘れずにやったことで優勝できたと思います。また、こんな大変な中、大会を開催していただきありがとうございます」と感謝が届けられた。

東地区で戦った男子二中の森優介キャプテンからは「総合体育大会が中止になり、チーム内でも不安の声があがりましたが、最後まであきらめずに練習に取り組めました。交流戦では全員が試合に出場し、優勝することができたのでうれしいです」と喜びの声が送られた。

同じく東地区で戦った女子二中の小林奈々夏キャプテンからは「いままでの努力が実り、優勝することができてうれしかったです。指導してくれた顧問の先生、応援して下さいました方々に深く感謝します」と感想が届けられた。

女子バレー

習志野市中学校女子バレーボール「最終交流試合」は8月1日と2日、西部地区は第七中学校、東部地区は第二中学校を会場に開かれた。

西部地区には一中、三中、五中、七中が、東部地区には二中、四中、六中、東邦中が参加。各会場では2日間にわたり、トーナメント戦が行われた。

西部地区の最終戦は一中と七中が対戦。試合は最後までつれる接戦となり、長いラリーの末に得点が入ると、保護者の座る観客席からは拍手が起こった。

女子七中の滝口なつみキャプテンは「試合内容は決して良いものとは言えませんが、最後にもう一度、仲間と一緒に戦うことができ、最高の思い出になりました。ここまで支えて下さった先生、コーチ、保護者の方々、そして仲間

には感謝の気持ちでいっぱいでした。女子二中の木村陽彰キャプテンは「交流戦に出場して、これまで続けてきて本当に良かったと感じました。入部して初めの頃はメンバー同士がうまくいかず、悩むことが多くありましたが、そんなメンバーと優勝するためにたくさん努力をしてきました。先生やメンバーに支えられ、最後まで全力でやり切れたことにすごく感謝しています」と感想を述べた。

